

学校開放日 校長講話より

(前文省略、途中部分省略)

また、先週は全中スキー大会があり18人もの選手が
出場。それぞれの子どもたちが、本当によく頑張っ
てきた。6名が入賞し、全中大会優勝者がなんと3人
も。うれしくもあり誇りにも感じます。フリースタ
イルも含め、スキー部の子どもたち、よく頑張っ
ている。部活といえば、今年1月、吹奏楽部、女子バレー
も地区大会を勝ち抜くなど活躍もしています。



私も昔ある運動部の指導をしていたが、今から考えると信じられないほど練習していた。

さて、本題に入ります。

そのときの私は部活に情熱を注いでいるので、部活動を頑張れる子ども、上手になる子どもが、自分にとってのいい子、素晴らしい子どもだったようにも思います。

また、管理職になる前は当然担任をしていたわけで、基本的に私は学力を高めないと気が済まないで、かなりテストのことも気にしたり、居残り勉強もさせました。そのときの私にとっては、勉強を頑張る子ども、勉強ができる子どもが、自分にとってのいい子、素晴らしい子どもだったかもしれない。

今の私は子どもとの関わりの面で言うと、廊下に立って、「おはよう」「さよなら」と挨拶をしています。そんな今の私は、挨拶は人間関係の基本。だから、何よりも挨拶ができる子どもが、いい子で、素晴らしいと、本気で思ったりもします。

でも、考えてみれば、勝手なものです。私の興味関心のありどころによって、同じ子どもがよくもなり、悪くもなってしまうのだから。子どももたまらない。

保護者の皆さんは、私みたいなことはありませんか。

ところで、長野県三行詩コンクール。その中の一つの作品。中野市の小学生(女の子)の作品にこんなものがあった。「妹が心配で休み時間に見に行っているけど、楽しそうに遊んでいる」。何か妹のことで心配することがあるのでしょうか。この子は実は授業中も妹のことを心配しているのかもしれない。廊下を歩いていて、その学校の先生から、「おはよう」と声をかけられても、耳に、声が届かないかもしれない。

子どもたちそれぞれに、何かがあるにあり、生活している。私たち教師は、あるいは、保護者も、その一つ一つを知ることはできないし、知らない方がいいのかもしれない。

でも、私たち教師は、つい、部活が得意、勉強ができる、挨拶ができると、自分の視点から、いい・わるい、できる・できないとついつい評価の対象として、子どもを見てしまう。そんな悪い癖があったりもする。

昔の記憶なので曖昧ですが、信濃教育会研究所長が書いた文だったと思います。こんなことが書かれていて、私の中に残っている。「教師がいかにも子どもを評価の対象としてみないように
に在るか。それが教師としての醍醐味で在り重要」。こんなことが書かれていた。

先ほどの三行詩。妹を心配する子を評価の対象としてみれば、授業中にボーっとしていて、
挨拶の声は小さく、休み時間に友達ともあまり遊ばないような、教師の都合には合わない
子、いい子ではないのかもしれない。

でも、この子は妹を思いやるとても心優しき子でしょう。この子はこの子で、完結している
わけで。私たち大人と同じように不完全で、未熟なところ多々在れど完結している。美しく
絶対的な存在で在る。

「光を見てもらえない子どもの星は、光を消す（東井義雄）」

「宇宙が闇だとする／そして人間の心が一つの一つの星として／輝いて見るとする／濁っ
た心は濁って光るとする／さう云う世界を考えたとき／美しい子どもの心と云うものは／一
体どれ程の美しい光輝を以って／輝き渡るだろう」（木村素衛）

こう考えたとき、子どもを評価の対象ではなく、ありのまま、まるごと受け止める、受け
入れる。子どもを完結した美しい存在として認める。私たちは、そんな存在で在りたいと改
めて思いもします。教師も親も、子どもを評価の対象として常に見ているとしたら、子ども
はやり切れない。心を開かないばかりか、反発もしたくなる。子どもが逆に、教師をあるい
は、自分の親を評価の対象として、冷めた目で見るともなる。いつも足りないところがある、
ダメな人として人を評価する、見るようになる。子どもにとって、そこにいてくれる
だけで安心できる、ほっとできる存在でいられたらなあと思ったりもする。

星の王子様を書いたサン・テグチュペリ。冒頭の言葉。「おとなは、だれもはじめは、子
どもだった。（しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもない）」

子どもが不完全なのと同じように、私たちも不完全。そして、年齢と共に、私たちは知識
を含め、たくさんものを手に入れたかもしれないが、子どもの頃持ち得たものをたくさん
失っているかもしれない。

子どもの今のため息は、私たちのかつての、あの日のため息。

子どもの今の哀しみは、私たちのかつての、あの日の哀しみ。

いいわるい、できるできないではなく、私たちも子どもだった。あるいはその延長上にいる
ことを忘れず、丸ごとありのままの子どもを受け入れるようにしていきたい。そんな存在で
ありたいなと最近ふと思ひます。

白馬中の子どもたちを見るに、かつての自分より、どの子もずっと立派だと思ひもします。

2022年度、最後の学校開放日。保護者の皆様には、この一年間、ご心配をおかけした面も
あったかと存じますが、温かな気持ちでお支えいただいたことに感謝申し上げます。

保護者の皆様、ありがとうございました。

今後の予定（予定の変更等が生じた場合は、改めて通知いたします。）

今後の予定（予定の変更等が生じた場合は、改めて通知いたします。）	
3月	
3日（金）職員授業研修	13日（月）3年生を送る会
6日（月）完全下校 17:30	15日（水）後期終業式・SDGs表彰式
7日（火）公立後期選抜 学年特別授業	16日（木）卒業証書授与式・離任式
3年下校 12:00	17日（金）学年末休み～31日
8日（水）生徒会・3年特別日課開始	公立後期選抜発表
	29日（水）1, 2年 新年度準備登校